

肥沃な耕地が砂漠化

止まらぬ略奪で農業は衰退

旧約聖書の「創世記」

は、ちょうど人間が農耕

を開始した時代を表して

いるように思われる。ア

ダムとイヴは「知恵の木

の実」を食べたためにエ

デンの園から追い出さ

れ、自分たちで土地を耕

し、家畜を飼って暮らさ

なくてはならないように

なった。しかもそれは神

が人に対して科した罰と

しての生業であった。

自然環境劣化が進行

エデンの園で人類が暮

らした時代は「創世記」

の中ではそんなに長い年

月ではなかったように書

かれているが、実際には

ホモ・サピエンスの誕生

以来、数十万年も続いて

いたのであろう。農耕を

開始した後の約1万年の

間に人類は人口を増や

し、新しい文明を築いて

きたが、それは必ずしも

幸せばかりをもたらした

ものではない。

生産物は社会の中で分

配されるようになり、さ

らには生産者が他の階層

によって支配され、例え

ば江戸時代の租税制度に

みられるように、収穫物

の大部分を搾取される時

代となった。現代では農

業生産の拡大の中で農業

自体がその原因となり生

産基盤となる土壌や自然

環境の劣化が進行し、生

産を続けられない土地も

発生するようになった。

再び温暖化で人口増

最終氷期の最寒冷期が

過ぎて、約1万3000

年ほど前から気候が急激

に温暖化し始めたが、1



リビアにおける古代ローマ時代の都市の廃墟

ス川上流にあるアブ・フ

レイラという村にコム

ギ、オオムギ、エンドウ

マメなどを栽培化して生

き延びた人たちがいた。これが西欧における農耕

の始まりとなった。

気候が再び温暖化した後に農耕を始めた人たちは人口を増やし、都市文明を培うことができた。上流地域での土地生産力の低下にともない、農業生産の中心地は下流部の低地に移り、降水量の少ない気候のもとで灌漑農業が始められたことにより、農耕地は荒廃してしまつた。かつて肥沃な三日月地帯と呼ばれた地域には、現在砂漠しか残っていない。

森林の伐採と開墾

農耕技術はその後、ギリシャ、ローマ、西ヨーロッパへと移っていった

が、いずれの地域でも森林の伐採と開墾による土壌侵食、ヤギなどの家畜の過放牧による植生喪失、養分を補給しない略奪農業によってそれぞれ数千年の繁栄の後には農業のできない土地を残して、それぞれの文明が衰退していった。

2021年7月にドイツ中部およびベルギーで大規模な土砂流出災害が起きたが、この地域ではローマ時代以降、森林の伐採と農耕によって最大1メートル数十センチの土壌が侵食されていた。

植民地から食料輸入

ローマや西ヨーロッパでは、自国の農業生産力

の衰退を補うためにその軍事力を行使して植民地からの食料輸入に依存するようになった。農耕は現地の小作人や農奴によって行われ、実際に農耕に携わらない支配階級によって土地からの利益が優先され、土地の肥沃度は省みられなかった。その結果、植民地でも土壌荒廃がもたらされ、食料不足の永続的な解決策とはならなかった。

西欧からの移民によって開始された北アメリカの農業においても、土壌保全や地方の培養はまったく省みられず、荒廃した農地を残して次々に先住民の土地を奪い、肥沃な土地を求めて西進して

いった。

西欧における農業はもうこの先がないことが近年明らかになるまで一貫して略奪農業であった。ギリシャ時代・ローマ時代の哲学者の中には農業衰退の理由と正しい土地の扱い方に気づいていた人も多かったが、略奪農業のすう勢を押し止めることはできなかった。

イスラエルは永続的

そのような中で、イスラエル人は7年に1度土地を休閑させ、堆肥を施用し、段々畑を築いて土壌侵食を防ぐなどして永続的な農業を行なったが、土地に留まることを許されなかった。